

【開催報告】

東京キャピタルマネジメントが「不動産ファンドフォーラム 2026」に出展 ～プロパティマネジメントを通じた価値創造の取り組みを紹介～

日本管財ホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：福田 慎太郎、以下「当社」）は、当社のグループ会社の東京キャピタルマネジメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：木村 光男）が、2026年3月3日（火）に開催された「不動産ファンドフォーラム 2026」に出展したことをお知らせいたします。



不動産ファンドフォーラム2026 当日の出展内容

不動産ファンドフォーラムは、『月刊プロパティマネジメント』を発刊する総合ユニコム株式会社が主催し、不動産ファンドの価値創造や投資機会について専門的な議論を行うフォーラムです。今回は投資戦略における「有望な機会」「注目の資産」「有力なパートナー」をテーマに講演が行われ、AM会社、PM会社、デベロッパー、仲介会社など、計137社198名が参加しました。

東京キャピタルマネジメントは協賛企業としてブース出展を行い、プロパティマネジメント事業を中心としたサービス内容や、不動産価値創造などの取り組みについて紹介しました。



当日の様子

東京キャピタルマネジメントの取り組み

東京キャピタルマネジメントでは、維持管理に留まらず「価値創造」をテーマとし、不動産資産に+αの付加価値をつける取り組みを推進中です。既存物件のセットアップオフィス化や、ファサード・EVホール・水回りなど共用部の改修を行い、利用者の利便性やビルグレードを高めるなど、物件の競争力向上と賃料水準改善による収益向上に繋がっています。また物件の用途や立地、周辺の賃貸市場を踏まえた運営方針を立て、リーシング計画や改修内容に反映させています。今後もさらに不動産資産価値の向上と差別化を図る取り組みに邁進してまいります。

「価値創造」への取り組み

・既存案件のセットアップオフィス化

オフィスビルでは、原状回復時にスケルトン化するのではなく、デザイン性やコンセプトを持たせた「セットアップオフィス」にすることで、早期成約と差別化及び物件価値の向上を図っています。

・共用部等のバリューアップ

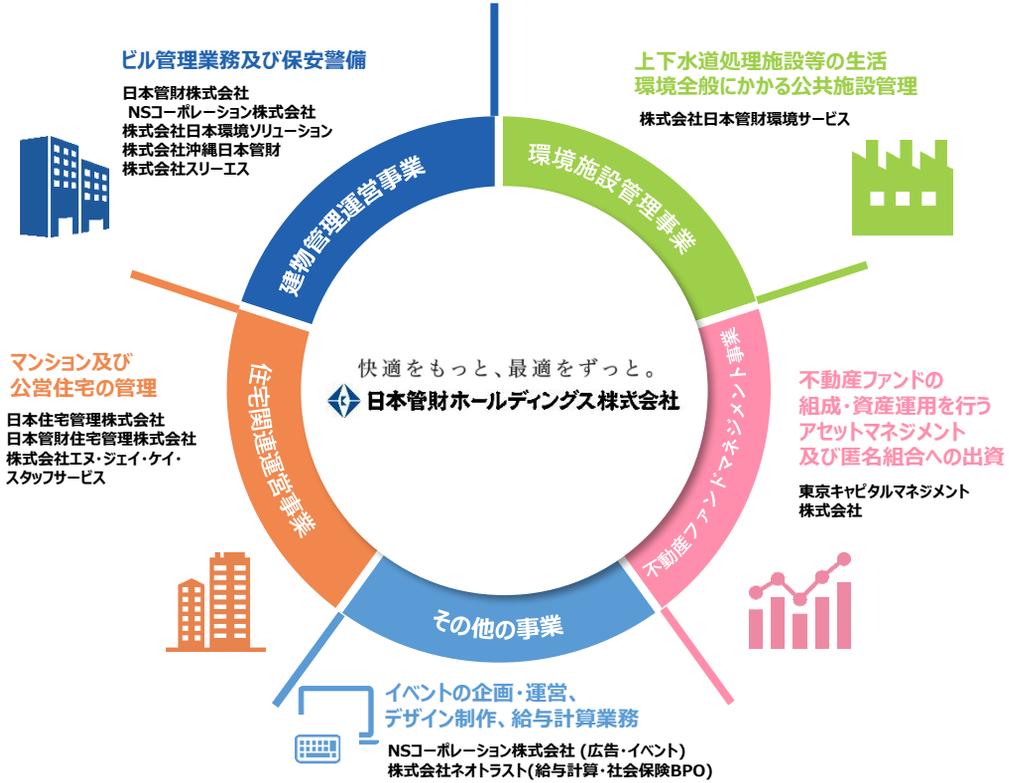
陳腐化が進む共用部（ファサード、EVホール、水回り等）を改修することで、ビルグレードの向上とテナント満足度を高めることで、早期成約と賃料向上を目指す取り組みを行っています。

日本管財ホールディングス株式会社

日本管財グループについて

日本管財グループは1965年に設立し、現在は国内及び海外で建物管理運営事業、環境施設管理事業、住宅関連運営事業、不動産ファンドマネジメント事業等を展開しています。独立系であることを強みに、オフィスビル、商業施設、ホテル、教育機関、公共施設など、幅広い用途に携わっています。

日本管財ホールディングス株式会社は持株会社として2023年に設立し、グループ経営機能に特化しています。



会社概要

社名 : 日本管財ホールディングス株式会社
所在地 : 東京都中央区日本橋2丁目1番10号
設立 : 2023年4月3日
代表者 : 代表取締役社長 福田 慎太郎
資本金 : 3,000百万円
事業内容 : オフィスビル、集合住宅、環境施設等の管理運営事業や不動産ファンドマネジメント事業等を営むグループ会社の経営管理及びこれに附帯又は関連する業務
URL : <https://www.nkanzaihd.co.jp/>

《 本件に関するお問い合わせ先 / 取材お申し込み先 》
日本管財ホールディングス株式会社 広報・IR・マーケティング室
E-mail : kouhoirm@nkanzaihd.co.jp